

『寄り添い方』～ ギャップ & 比較からの脱却 ～

筆者は、2026年3月19日 埼玉医科大学総合医療センターの プレストケア科で の『がん哲学外来』に赴む。想えば、今は亡き プレストケア科教授 矢形寛先生（2019年9月11日 満55歳で、逝去）が、2016年11月に『小江戸がん哲学外来』を開設された。今年、10周年記念である。

【2019年7月6日『がん哲学外来市民学会 代表』を務める筆者は、『第9回 がん哲学外来コーディネーター 養成講座 in 埼玉』（実行委員長：矢形寛教授）と、翌日の『第8回 がん哲学外来市民学会大会』（大会長 矢形寛先生）（ウエスタ川越 於いて）に出席した。『第8回 がん哲学外来市民学会 大会』のテーマは、『患者 — 医療者間のギャップを考える ～ 比較からの脱却 ～』であった。座談会テーマ『「比較からの脱却」～ たかがカフェされどカフェ ～』では、関口淳子氏も出席され、多数の参加者で、会場は大盛況であった。大いに感動したものである。】が、鮮明に思い出された。継続の大切さを実感する日々である。

まさに『生きる力を引き出す 寄り添い方』（2018年青春出版社発行）（添付）の実践であった。【大切な人が、がんになったとき… なぜ、どうして… 何の、誰のせいで… いつから… どうすれば… たくさんのことが、次から次へとわきあがってきます。どう考えて、何をすればいいのか… これまで多くの患者や家族と個人面談を続けてきて、見えてきたことを綴りました。】

1章 大切な人が、がんになったとき

- ・解決できなくても解消はできる

2章 「寄り添う」と「支える」の違いとは

- ・自分の気持ちで接するのではなく、「相手の必要に共感」

3章 純度の高い医者を見極める

- ・医師も情報も「純度」で見分ける

4章 がんと共に生きて生きる

- ・人生は、「最後の五年」で決まる

5章 がん哲学外来とカフェの力

- ・自分より困っている人に接する

6章 自分の役割・使命に気づく

- ・「これしかない」を見つける。

大切な人ががんになったとき…

生きる力を引き出す 寄り添い方

順天堂大学 医学部 /
国際教養学部 教授
がん哲学外来 理事長
樋野興夫

笑顔が生まれる 接し方とは

- ※「支える」と「寄り添う」を分けるもの
- ※「顔立ち」と「顔つき」の違いとは
- ※「傷つける会話」と「癒す対話」…

3,000人以上のがん患者・家族と個人面談をつづけてきた
著者が贈る「がん哲学外来」10年の知恵

青春新書
PLAYBOOKS
青春出版社